

## 第189回国際高官セミナー 「再犯防止と国連準則：改善更生と社会復帰」

### 1 日程及び参加者

- 令和8年1月14日（水）から同年2月5日（木）まで
- 海外参加者9名（9か国から参加）
- 国内参加者3名

### 2 セミナー概要

本セミナーでは、「再犯防止と国連準則：改善更生と社会復帰」を主要課題とし、再犯防止に関連する国連準則のうち、京都モデルストラテジーを中心として、非拘禁措置の活用、適切な刑務所運営や犯罪者の更生と社会復帰を念頭に置きつつ、各国における再犯防止対策に関する現状と課題、犯罪者処遇に関する各国の有用な制度やその実務的運用、グッドプラクティス等の情報や経験を、個人発表や講義等を通じて共有することにより、各国の制度や実務の改善につなげるとともに、セミナー参加者の相互理解を促進し、各国の実務改善のための継続的な情報交換に向けたネットワークを構築することを目的とするものでした。

### 3 セミナーの内容

#### (1) 講義

本セミナーにおいては、国連アジア極東犯罪防止研修所教官による講義のほか、以下の専門家による講義も行い、各講義の後に質疑応答の機会を設けました。

#### 【海外の専門家】

- スティーブン・ジョン・ピッツ 氏  
欧州保護観察連合（CEP）担当大使  
「保護観察における能力構築：何が機能するのか？—社会内処遇を強化するための国と世界が行う手順」  
「改善更生と社会復帰を通じた再犯防止：実証的証拠に基づく実践」
- モハマド・ファドリ・ビン・サフィ 氏  
シンガポール共和国内務省チャンギ刑務所 B4 施設第二施設長  
「セカンドチャンスを超えた包摂的社会の促進」

#### 【国内の専門家】

- 高坂 朝人 氏  
NPO 法人再非行防止サポートセンター愛知理事長  
「自分と未来は変えられる～再非行を減らし、笑顔を増やしたい～」
- 楠木 重彦 氏  
法務省大臣官房秘書課企画再犯防止推進室長補佐  
「日本における再犯防止施策の概要について」

## (2) 個人発表

セミナー参加者による各国の実務や課題に関する個人発表を行いました。各発表に対して、参加者から積極的な質疑応答が展開されました。

## (3) 施設見学

以下の施設を訪問し、それぞれの施設における再犯防止の取組等の実務を学ぶことができました。

- ・ 広島刑務所
- ・ 更生保護施設ウィズ広島
- ・ 立川拘置所
- ・ 東京保護観察所立川支部
- ・ 東京家庭裁判所

## (4) グループ討議・発表

セミナー参加者は、個人発表や講義、施設見学等の結果を踏まえて、再犯防止に関する課題の特定とその対応策に関する討議を行いました。具体的には、2グループに分かれ、再犯防止国連準則（京都モデルストラテジー）を推進していくため、裁判前、裁判後のそれぞれの段階において、現状を分析し、課題となっている点を特定して原因を探った上で、各国のグッドプラクティスを持ち寄り、実現可能な解決策について意見を出し合いました。そして、討議の結果を研修参加者や当研修所職員の前で発表し、セミナーの総括としました。

## 4 セミナー参加者からのフィードバック等

セミナー参加者からは、個人発表や講義、施設見学等を通じて、京都モデルストラテジーについて理解を深めることができた、再犯防止に関するグッドプラクティスを網羅的に学べた、再犯防止に携わる実務家のネットワークを築くことができた有意義なセミナーであったと肯定的な意見が多く寄せられました。一方で、少年院や検察庁なども含め網羅的に刑事司法機関を見学しなかったなどの建設的意見もいただきました。引き続き、参加者のニーズを酌みつつ、プログラムの改善に努めたいと思います。

## 5 担当教官の所感

本セミナーは、2025年12月に国連総会で採択された再犯防止国連準則（京都モデルストラテジー）をテーマとするもので、同準則の採択後初めての国際研修となりました。そのような背景から、非拘禁措置の活用、適切な刑務所運営や犯罪者の更生と社会復帰といった同準則の柱を網羅的にカバーしながら、各国の現状と課題、グッドプラクティスなどを共有するとともに、グループワークによるアクションプラン作成を通じ、これらの課題解決に向けた具体的な検討を深めることを図りました。

講義や個人発表、施設見学などを通じて、各国での非拘禁措置、刑務所運営や犯罪者処遇の実情や課題、対応策などの経験が共有されました。とりわ

け、専門家の講義はセミナー参加者の関心を引き、活発な議論につながっていたと感じ、担当教官としてもこれらの取組や議論から学ぶことができました。具体的には、犯罪者処遇における能力構築、更生保護ボランティアや地方自治体を始めとするマルチステークホルダーとの連携、テクノロジーを活用した刑務所における更生環境の整備、当事者による支援といった知見の蓄積と共有は京都モデルストラテジーを推進していく上で特に重要な点であることが確認されました。

セミナーの総括であるグループワークの中では、今後各参加者が取り組んでいくこととして、いずれのグループも、対象者の特性を踏まえた個別アプローチを念頭に置きつつ、裁判前、裁判後の各段階において、判決前調査の活用などによる非拘禁措置などの代替措置の実現、刑務所入所時から出所後までのシームレスな社会復帰の促進、それらを実現するためのマルチステークホルダーとの連携や地域の理解醸成などの点を指摘していました。これらは、いずれも京都モデルストラテジーを実現していく上でも不可欠な要素であり、着実な推進を願っています。

本セミナーでは各国からの参加者による具体的な知見の共有や相互理解を通じて、京都モデルストラテジーを普及・実施していくための機運醸成に加え、それを推進していくための国際ネットワークが形成される様子を目の当たりにしました。今後、本セミナーで得られたものを、自国制度の発展・充実化に活用してもらえれば幸甚です。

以 上